

資料

子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する 親の認識に関する文献レビュー

A Literature Review on Parents' Perceptions of the Use of Electronic Media with Infants and Toddlers in Child Raising

大久保明子¹⁾, 伊藤ひかる¹⁾

Akiko Ohkubo¹⁾, Hikaru Ito¹⁾

キーワード：乳幼児, 電子メディア, 子育て, 認識, 文献レビュー

Keywords: infants and toddlers, electronic media, child raising, perceptions, literature review

要旨

本研究の目的は、子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識を国内文献から明らかにし、乳幼児への電子メディア使用に関する親への支援について示唆を得ることである。医学中央雑誌 Web, CiNii, Google Scholar を用いて検索し、10 文献を対象に分析した。

子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識は、【子守りとして利用することへの有用さ】【知育教材として活用することへの有用さ】【子どもの健全な育ちへの悪影響を懸念】【スマホに頼る育児への申し訳なさ】の4カテゴリが抽出された。看護職は親が電子メディアを子守りの手段として使用せざるを得ない状況を理解し、共感的な態度を示すこと、乳幼児への悪影響を最小限にするための電子メディアの使用方法について周知すること、個別の子育て環境に応じた電子メディアの使用ルールについて、親と共に考えていくことが必要であると考え、

I. はじめに

電子メディアは、私たちの生活を豊かにし欠かせないものとなっている。なかでもインターネットやスマートフォン（以下、スマホとする）の普及は、いつでもどこでも人や情報につながるができるという利便性をもたらした。育児においても例外ではなく、乳幼児をもつ母親の約9割は、育児情報源としてインターネットを利用しており、より手軽に育児情報が入手できる環境になった（中島, 永井, 2020）。また、Facebook や Instagram, LINE などの Social Networking Service (SNS) の利用は、育児方法の不安や悩みを抱える中で、似た境遇の人とつながり、物理的な距離に関係なく情報交換できることで心の安定が得られるというメリットもある（古野, 2020）。さらに、子育てや教育で子どもに電子メディア

を活用することは、子どもの言語の習得、娯楽、知育、知識の獲得などの有効な手段ともいわれている（中山, 2019）。

一方で、近年「スマホ育児」という言葉が注目を浴びている。「スマホ育児」とは、養育者が家庭内や外出先で乳幼児でも操作可能なアプリが入ったスマホやタブレットを手渡し、動画を見せたりゲームをさせる、泣き出した乳児をあやす、なだめるなどの態度をいう（青木, 水國, 2017）。乳幼児がスマホを含むテレビやビデオなどの電子メディアを長時間使用することにより、成長発達に必要な体験の減少、言語発達の遅れ、生活リズム・生活習慣の乱れ、視力低下、愛着形成や自制心の発達への悪影響、依存性などが指摘されている（佐藤, 2018）。日本小児科医会は、2004年に「見直しましょうメディア漬けの子育て」、2013年に「ス

2023年7月6日受付；2023年11月13日受理

1) 新潟県立看護大学 1) Niigata College of Nursing

マホに子守りをさせないで」などのポスターを作成して、乳幼児への子育てにおける電子メディア使用の制限に関する啓発活動を行っている（日本小児科医学会, n. d.）。また、アメリカ小児科学会も2016年に最新情報を更新し、乳幼児の電子メディア使用に関する提言を示している（AAP, 2016）。しかし、乳幼児の電子メディア活用調査（ベネッセ教育総合研究所, 2018）では、テレビ番組は1歳で83.0%、ビデオ・DVDは2歳で26.9%がほとんど毎日見ており、0歳から6歳までのすべての年齢でスマホやタブレット端末の接触頻度や接触時間が増加傾向にあると報告されている。乳幼児の電子メディア接触に関する親の認識についての文献は散見されるが、子育てにおいて電子メディアを用いることに対する親の認識としてまとめられた文献は見当たらない。そこで、乳幼児を育てている親が、子育てに電子メディアを用いることに対してどのように認識しているかを明らかにする必要があると考えた。本研究により、乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識を概観し、看護職としての必要な支援の示唆を得ることができると考える。

II. 目的

子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識を国内文献から明らかにし、乳幼児への電子メディア使用に関する親への支援について示唆を得る。

III. 用語の定義

電子メディアとは、テレビやビデオ、スマホやタブレット、パソコン、ゲームなどとする。認識とは、子育てにおいて乳幼児に電子メディアを用いることに対する親の思いや考えとする。

IV. 研究方法

1. 対象文献の選定

2023年4月までに発行された国内文献について、医学中央雑誌 Web を用いて検索した。検索式を「電子メディア or スマートフォン」and「乳幼児 or 子ども」and「両親 or 親 or 養育者 or 保護者」and「原著論文」とし、36件を抽出した。同様のキーワードを用いて CiNii で66件、Google Scholar で65件を抽出

表1 対象文献一覧

文献番号	発表年	筆者	タイトル	掲載誌	対象者	研究方法
1	2023	甲斐鈴恵	乳幼児の電子メディア使用に関する養育者の認識の構成要素と影響要因 4歳以下の乳幼児をもつ養育者へのインタビュー調査の分析	子どもの健康科学, 24 (1), 17-27	6か月から3歳10か月の子どもの養育者18名	面接調査
2	2021	桧垣淳子 萩尾耕太郎 他	乳幼児のスマートフォン使用と保護者の使用状況及び意識との関連性	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 53, 75-84	私立保育園に通園している園児の保護者114名	質問紙調査
3	2020	松野友絵 杉浦絹子	1～2歳児をもつ母親の育児におけるデジタルデバイス使用に対する認識	母性衛生, 61(2), 447-454	1～2歳児ひとりのみを養育する母親134名	質問紙調査
4	2020	石黒紗里奈 熊谷真愉子 他	育児へのスマートフォン利用に対する母親の認識と母性意識の影響	秋田県母性衛生学会雑誌, 33, 21-28	2～3歳児をもつ母親118名	質問紙調査
5	2019	甲斐鈴恵	子どもの電子メディア接触に関する保護者の意識 認定こども園などに通う子どもの保護者を対象に	日本小児看護学会誌, 28, 325-332	A市の認定こども園に通う子どもの保護者1,652世帯	質問紙調査
6	2018	遠藤有里 杉原佑美 他	乳幼児のメディア接触と母親の意識・行動との関連	米子医学雑誌, 69, 43-49	A市の幼稚園・保育園に通う子どもをもつ母親189名	質問紙調査
7	2018	甲斐鈴恵, 吉田幸代	乳幼児期の電子映像メディア接触実態と今後の課題 宮崎県内認定こども園等に通う子どもの保護者アンケート調査から	宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報, 7, 13-21	宮崎県内認定こども園・保育園・幼稚園に通っている保護者1,652世帯	質問紙調査
8	2018	桧垣淳子	乳幼児のスマートフォン使用の現状と保護者の意識からみる課題と今後の取り組み	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 50, 189-195	福岡市と朝倉市の私立保育園, 私立幼稚園に通う子どもをもつ保護者338名	質問紙調査
9	2017	大西竜太 平野美千代 他	3歳児の養育における統制場面でのスマートフォン使用に関する母親の認識	日本公衆衛生看護学会誌, 6(3), 240-248	3～4歳児を養育しスマホをもつ20～30代の母親10名	面接調査
10	2014	大宮明子 石田有理 他	幼児のデジタル機器利用実態と保護者の意識	十文字学園女子大学人間生活学部紀要, 12, 13-23	都内の私立保育園に通園している園児の保護者114名	質問紙調査

した。これらの文献のタイトル及び要約から乳幼児の子育てにおける電子メディア使用に対する親の認識に関する記載がないものや重複する文献を削除し、10文献を対象文献とした。(文献検索日：2023年5月16日)

2. 分析方法

対象文献を精読し、乳幼児の子育てにおける電子メディア使用に対する親の認識に関する記述をコードとして抽出し、コードの類似性によりカテゴリ分類した。分析の妥当性を担保するために、共同研究者と検討を重ねるとともに、ネット依存・ゲーム障害の子どもたちの支援に関わっている看護教員からの助言をいただいた。

V. 結果

1. 文献の概要(表1)

対象文献は、質問紙調査が8文献、面接調査が2文献であった

2. 乳幼児の子育てにおける電子メディア使用に対する親の認識(表2)

親の認識は、98コードが抽出され、16サブカテゴリ、4カテゴリが生成された。以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを〈 〉, コードを「 」で示す。また、表2のコード末尾の数字は文献番号を示している。

1) 【子守りとして利用することへの有用さ】

このカテゴリは、〈家事などで手が離せない時の子守りとしての利用〉〈公共の場で子どもを静かにさせるための利用〉〈子どもの欲求充足のための利用〉〈育児負担軽減のための利用〉〈子どもの世話からの解放による自分のための時間確保〉の5つのサブカテゴリで構成され、育児と家事の両立や公共の場で子どもをあやすときなどに、子守りの手段として役立つと認識していた。

2) 【知育教材として活用することへの有用さ】

このカテゴリは、カテゴリと同様の1つのサブカテゴリで構成された。電子メディアの使用について、「知識や教養が豊かになる」「子どもにとって見る番組を選べば言葉やルールを覚える」「集中力、思考力、想像力、感受性など内面的な発育を促す役割が期待できる」「タブレットは小学校で導入されているので幼児期から慣れていた方がよい」などのように、乳幼児の知的発達を促進する知育教材ととらえていた。

3) 【子どもの健全な育ちへの悪影響を懸念】

このカテゴリは、〈長時間視聴による悪影響への懸念〉〈スマホ依存への不安〉〈身体への悪影響の心配〉〈脳

神経や心の発達への悪影響の心配〉〈コミュニケーション能力低下の心配〉〈生活習慣の乱れへの心配〉〈子どもへの影響を考慮する必要性〉〈子育てにスマホを使うことへの漠然とした不安〉の8サブカテゴリから構成され、乳幼児に電子メディアを使用することにより、心身に何らかの悪影響があるのではないかと懸念していた。

4) 【スマホに頼る育児への申し訳なさ】

このカテゴリは、〈スマホに頼ることへの罪悪感〉〈スマホによる言い聞かせへの疑問視〉の2サブカテゴリから構成され、スマホに子守りをさせていることに申し訳ないという思いを抱いていた。

VI. 考察

親は、子育てに電子メディアを用いることについて、【子守りとして利用することへの有用さ】【知育教材として活用することへの有用さ】のように、親自身と子どもの両者にとっての有用性があると認識していた。就園している乳幼児の1日のメディア視聴(活用)時間帯は、朝食や登園支度、夕食の支度の時間帯である朝8時～8時半と夕方16時半～18時に集中している(ベネッセ教育総合研究所, 2018)ことから、核家族化が進む現代においては、家事と育児を両立させるためには、子守りを電子メディアに頼らざるを得ない状況がうかがえ、実際に乳幼児に電子メディアを用いることで家事がはかどり、【子守りとして利用することへの有用さ】を感じていたと考えられる。また、育児負担を軽減して自分の時間を確保できることは、子育て中の親の育児ストレス軽減にも役立つと思われる。一方で、電子メディア、特にスマホに子守りをさせることについては、【スマホに頼る育児への申し訳なさ】といった親として適切な子育てができていないことへの後ろめたさを感じていた。甲斐(2023)は、電子メディアの使用は家事・育児を遂行するための手段や子育ての苦悩から解放される手段であり、肩身の狭い思いをすることなく効果的な活用を考慮すべきと述べている。看護職は親が電子メディアを子守りの手段として使用せざるを得ない状況を理解し、共感的な態度を示しながら、適切な使用について周知していく必要がある。また、核家族化や地域のつながりの希薄化の中で、子どものあやし方などがわからないために、電子メディアを安易に使用している可能性もあるため、ぐずっている子どものあやし方などの子どもとのかかわり方や遊び方を実践的に伝えていくなどの支援が必要と考える。

表2 子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
子守りとして利用することへの有用さ	家事などで手が離せない時の子守りとしての利用	いかに短時間で家事を終わらせるかに集中してとりあえずYouTube見ながら静かに過ごしてくれればいいとしか考えていない (1) 録画しているテレビやYouTubeがないと手が回らない。そこは割り切ろうと思う (1) ばたばたしている時に抱っこと言われると、何も進まなくなるのでその時に見せる (1) ご飯を作っている間にしている (1) かわいそうですけどテレビに押し付けて、それ以外の方法が知りたい (1) ぐずったり、静かにさせたいとき、家事の時だけ使う (5) 家事などで手が離せない時の子守りのために見せる (6) (8) 子育てと家族の生活の両立が大変なとき、スマホは頼りになる (9)
	公共の場で子どもを静かにさせるための利用	病院の待合室でギャーというのも避けたいから、そうになったら見せる (1) 外出先で、ご飯が出てくるまで静かにどうしても待てない時は見せる (1) 公共の場で静かに過ごせる (5) 移動時間や待ち時間にじっとさせるために見せる (6) ぐずったときに機嫌をよくするために見せる (6) 子どもに静かにしてほしい時の最終手段として使う (8) 乗り物・公共機関での移動や外出先での待ち時間で使用する (8) 私に対する他人の目が怖いので、子どもが騒がないようにスマホを使ってしまう (9)
	子どもの欲求充足のための利用	子どもが番組を見て喜ぶ姿を好ましく思う (1) 子どもが見たいという番組を見せる (1) 子どもが見たい (使いたい) というときに見せる (1) (8) 祖母がテレビを見せちゃうが、それはいいかと思う (1) がんばって我慢する子どもの気持ちを満たすためならスマホを使うのも一つだ (9) 子どもの興味にあったアプリが多い (10) どこでも遊べる (10)
子どもの世話からの解放による自分のための時間確保	育児負担軽減のための利用	一緒に遊んであげたいが3人もいると難しく、結局テレビになる (1) 6割の母親が子どもにスマホを見せることで育児負担が軽減すると感じていた (4) スマホでの言い聞かせは手取り早くて親にとって都合がよい (9) スマホに頼れば我慢の限界になりそうな時でもなんとかなるので安心だ (9) 親子の時間がつぶせる (10)
	子どもの世話からの解放による自分のための時間確保	3人目になり、いっぱいいっぱい怒るより、子どもがテレビを楽しく見て自分も休めればいい (1) 何となく4時から見せている。見てくれると私がゆっくりできる (1) 見せておくと自分のことや下の子のことができる (1)
	知育教材として活用することへの有用さ	うまく、教育に活かせば、いろいろなコンテンツがある (1) 教育的な面で英語だけは聞かせてもいい (1) 子どもにとって見る番組を選べば言葉やルールを覚える (1) 子どもに関心をもってもらいたい番組を選ぶ (1) 子供向けのTVやビデオは使用してもよい (3) 知識や教養が豊かになる (5) 集中力、思考力、想像力、感受性など内面的な発育を促す役割が期待できる (5) 基本的な生活習慣やルールを学べる (5) よい刺激になる (5) 知識や教養を身につけさせるために見せる (6) 幼児教育として積極的に使用する (7) 子どもの利益になるならスマホを使うのも一つの選択肢 (9) 保護者の約半数は幼児向けアプリをダウンロードして遊ばせている (10) 絵本アプリで遊びながらも児への関心が増したことを好意的にとらえていた (10) タブレットは小学校で導入されているので幼児期から慣れていた方がよい (10)
子どもの健全な育ちへの悪影響を懸念	長時間視聴による悪影響への懸念	あまり見せすぎはよくないと思うので、長くなったら少し止めて (1) テレビに子守をさせるのはよくないと聞いているので、つけっぱなしにしないようにしている (1) 近いと乱視になること聞いてから、連続で見せるのはよくない (1) TVに比べスマホを長時間見せることは成長・発達の悪影響があると考えている (3) 約7割の母親が長時間のスマホ使用による弊害として視機能障害を認識していた (4) 約5割の母親が長時間のスマホ使用によるコミュニケーション能力の低下を認識していた (4) 約6割の母親が長時間のスマホ使用による弊害として睡眠障害を認識していた (4) 約7割の母親が長時間のスマホ使用による弊害として依存症を認識していた (4) 9割の親は長時間の視聴や使用を気にしている (8) 7割の親はスマホを使用してもよいがやりすぎはよくないと思う (8)
	スマホ依存への不安	依存性が高まる不安 (5) 夢中になりすぎるのが心配 (6) (8) 大きくなったときに依存する心配 (6) (8) スマホを見ると子どもはスマホ中毒かのように離れられなくなる (9)
	身体への悪影響の心配	眼に悪い、視力が下がる心配がある (5) (6) (10) 9割の親は視力の低下を気にしている (8) スマホは子どもの目に悪影響だと思う (9) 聴力の低下 (5) 経路不足による体力の低下 (5) スマホを見るときの子どもの姿勢は身体に悪い気がする (9)
子どもへの影響を考慮する必要性	脳神経や心の発達への悪影響の心配	発達する思考力の低下、欠如 (5) 脳や神経への悪影響 (5) こころの発達の未熟性 (5) スマホは子どもから「子どもらしさ」を奪っている気がする (9)
	コミュニケーション能力低下の心配	言語発達や会話能力の低下 (5) 家族コミュニケーションの低下 (5) スマホは子どもからコミュニケーションの育ちを奪う気がする (9) 対人コミュニケーション能力が低下する恐れがある (10)
	生活習慣の乱れへの心配	生活習慣の乱れ (5) スマホは子どもの健康的な生活習慣を奪う気がする (9)
スマホに頼る育児への申し訳なさ	子どもへの影響を考慮する必要性	子どもへの影響を考えてスマホの使い方を判断しなければならない (9) この子の現在と将来を踏まえて「子どものため」になるスマホの使い方を考える (9)
	子どもへの影響を考慮する必要性	何となくよくないみたいな雰囲気を感じる (1) (いろんな意見があるので) よいのか悪いのか気になる (1) どういふふうに使えばいいのかと思う (1) 子育ては毎日のことだから、やっぱり気になる (1) もう少し一緒に遊ぶ時間を増やした方がいいのか。大丈夫なのか (1) 約8割の親は子どもと一緒にいる時にスマートフォンの使い方を気にしている (2) スマホとの適切なかわり方が知りたい (2) TVやビデオに比べスマホやタブレットを「できれば見せ(使わせ)たくない」と考えている (3) 2割の親はまだ影響がわからないので心配である (8)
	スマホに頼る育児への申し訳なさ	8割の母親は、育児で子どもにスマホを見せることに罪悪感や抵抗感を抱いていた (4) 子どもによくないのにスマホに頼ってしまい、罪悪感にさいなまれる (9) スマホに頼るのは私の力不足なので、親として申し訳ない (9) 言い聞かせにスマホを使うのが子どもの利益になるのか悩む (9) スマホで脅して言い聞かせると子どものトラウマになりそうだからかわいそう (9) 親なのにスマホで言い聞かせるのは筋違いだ (9)

育児とは、子どもを心身ともに健やかに育てる行為であり、身体的および精神的な発達を促し、基本的な生活習慣の自律をはかり、社会に適応すべく能力を育むことである（日本小児看護学会，2007）。親は子どもの知識や教養を豊かにし、言葉やルールを習得させるための手段として【知育教材として活用することへの有用さ】を認識しており、「タブレットは小学校で導入されているので幼児期から慣れての方がよい」などのように、デジタル社会に遅れをとることなく、順応できるようにしてあげたいという親心を感じ取ることができる。知育を目的として視聴させる子ども向けのYouTube動画であっても、暴力的な内容や殺人を犯すような衝撃的な内容が含まれている場合があり、現時点では不適切な動画を完全に排除できない（宮下，2019）ため、知育教材として活用する際には、親は子どもが視聴する動画の内容をチェックして、適切な内容のものを視聴させるように伝えていく必要がある。

親は子育てにおける電子メディアの有用性を認識している反面、【子どもの健全な育ちへの悪影響を懸念】を抱きながら使用していた。日本小児科医会（2004）は、乳幼児の電子メディア使用に関して、2歳までのテレビ・ビデオの視聴は控えること、授乳中・食事時のテレビ・ビデオの視聴をやめること、すべてのメディアに接触する総時間を1日2時間を目安とすること、子ども部屋にテレビ・ビデオ・PCを置かないようにすること、保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールを作るという5つを提言している。宮下（2019）は、親は不安を抱えながらそれぞれの判断でルール作りを行っているため、親がルール作りの参考となるような情報を提示する必要があると述べている。看護職は、乳幼児健診や出産・育児に向けた両親学級、保育園の保護者会などの機会を活用して、電子メディアの使用が及ぼす乳幼児への影響や、悪影響を最小限にするための電子メディアの使用方法について周知するとともに、個別の子育て環境に応じた電子メディアの使用ルールについて、親と共に考えていくことが必要であると考えられる。

VII. 結論

子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識は、【子守りとして利用することへの有用さ】【知育教材として活用することへの有用さ】【子どもの健全な育ちへの悪影響を懸念】【スマホに頼る育児への申し訳なさ】の4カテゴリが抽出された。看護

職は親が電子メディアを子守りの手段として使用せざるを得ない状況を理解し、共感的な態度を示すこと、乳幼児への悪影響を最小限にするための電子メディアの使用方法について周知すること、個別の子育て環境に応じた電子メディアの使用ルールについて、親と共に考えていくことが必要であると考えられる。

謝辞

本研究のデータ分析においてご助言をいただいた新潟県立看護大学 安達寛人先生に感謝申し上げます。

利益相反

本研究における利益相反はない。

著者資格

AOは研究の構想、データ収集、分析、原稿作成までの研究プロセス全体に貢献。HIはデータ分析、原稿作成への示唆に貢献。すべての筆者は最終原稿を読み承認した。

文献

- American Academy of Pediatrics. (2016). Council on Communications and Media. Children, Adolescents, and Digital Media. *Pediatrics*, 138(5), e20162593.
- 青木智子, 水國照充. (2017). ICTに対する養育者の態度と子どもへの影響: 愛着障害の視点から考える. *国際ICT利用研究会論文誌, 創刊記念号 1(1)*, 23-30.
- ベネッセ教育総合研究所. (2018). 第2回乳幼児の親子メディア活用調査報告書. https://berd.benesse.jp/up_images/textarea/ 全体通し.pdf (検索日 2023年8月28日)
- 古野陽一. (2020). SNSとの付き合い方指南. *小児内科*, 52(12), 1835-1839.
- 甲斐鈴恵. (2023). 乳幼児の電子メディア使用に関する養育者の認識の構成要素と影響要因: 4歳以下の乳幼児をもつ養育者へのインタビュー調査の分析. *子どもの健康科学*, 24(1), 17-27.
- 宮下牧恵. (2019). 乳幼児とインターネット動画～保護者に委ねられる「ルール作り」. *放送研究と調査*, 69(2), 102-105.
- 中島千英子, 永井由美子. (2020). 母親の育児情報源としてのSNS利用に関する調査. *大阪教育大学紀要 人文社会科学・自然科学*, 68, 41-49.

- 中山秀紀. (2019). 子育てにおけるメディア: メディアの上手な利用とは. 小児保健研究, 78(2), 93-97.
- 日本小児科医会. (n. d.). 子どもとメディア委員会. https://www.jpa-web.org/about/organization_chart/cm_committee.html(検索日2023年4月28日)
- 日本小児科医会. (2004). 「子どもとメディア」の問題に対する提言. https://www.jpa-web.org/dcms_media/other/ktmedia_teigenzenbun.pdf(検索日2023年4月28日)
- 日本小児看護学会. (2007). 小児看護辞典, 27, へるす出版.
- 佐藤和夫. (2018). スマホ育児が子どもに与える影響およびその対策. 外来小児科, 21(1), 51-56.